

浸水による断水を避ける (神奈川県小田原市)

事業者：神奈川県 小田原市

災害時に効果を発揮した3か年緊急対策の事例



↑ 0.4m
(令和元年台風19号での浸水深)

止水扉（水源地の建屋内にある電気設備等の浸水対策として設置）



対策名： No.115 全国の上水道施設（取・浄・配水場）に関する緊急対策

事業名： 第二水源地浸水対策事業

- ポイント**
- 止水扉の設置と明かり取り窓を水密化することにより3mまでの浸水を防止
 - 敷地内が浸水した際にも電気設備等に被害はなく、安定給水を確保

地域の概要・課題

近年、台風やゲリラ豪雨による浄水場等の浸水被害が増加しており、小田原市においても浸水被害を想定した適切な危機対応が求められています。

事業の概要

第二水源地における建屋内の電気設備等の浸水対策として、酒匂川洪水ハザードマップに基づき基準高3m（酒匂川堤防高さ）を踏まえ、想定浸水深3mまで対応可能となる止水扉を設置しました。

効果

令和元年台風19号では敷地内で0.4mの浸水が発生しましたが、止水扉を設置したことで、電気設備等に被害はなく、安定給水が確保されました。

浸水による断水戸数（3m浸水時の想定）

